



リカル変態魔法少女

～輪姦魔法少女&逆レイプ守護騎士～

十二月一日 午前二時
海鳴市 住宅街

命までは取らない
だが、こちらの意思に
従って貰おう

な、何のつもりだ！
こんな事をして、管理局が
黙っていると思うのか！

管理局や貴様の意思など
どうでもいい。ただ…

ズッ

どっ





ハア



ひっ…!!
な、何を…!!



お前の魔力を
貰うだけだ



すぐに済む
大人しくしている

ハア

ハア

ハア

ひひひひひ…



フツ… 戦闘は弱い癖に
ヨは立派だな

ヒキヒキ

だが少し臭うぞ
ちゃんと手入れを
するんだな

痴女が言いたい放題
言いやがって…!!

ハア

フツツ：痴女に襲われ
硬く勃起している貴様は
何なのだ？ 変態め：

ハア

ひっ…やめっ！
あがあああつ！

ハア

どうだ、気持ち良いか？
主もお気に入りの胸だぞ

も、もう…
やめろっ…！

んっ…

ハア

準備出来たな…

ハア



では、私の膣内で
貴様の魔力を全て
搾り取らせて貰おう

ハア

どろろ

ハア

キキキ

どろろ

ひっ…ち
やめろっ！

ハア

くうっ…お…
大きい…全部
入るか…？

ハア

た、頼む…やめてくれ
俺はまだ童貞なんだ！

ふん…
観念しろ…

ズズズ

ハア

どろろ

んっ……っああ、
ああああ……っ！

オオオ

オオオ

ビクビク

ハア

ぐああっ……

オオオ

ビクビク

ハア

ハア

く、くそっ……
こんな女に……

ハア

フツ……この程度で
終わりではないぞ……
もっと……奥……

ハア

ガガガ

な、なんだよ…
この感触は…

奥で…締め付け
られて…ひっ!

フツツ…
どうなっているか
知りたいか?

ハア

ズッ

ズッ

ハア

み、見えるか…?
お前の先端が…
わ、私の子宮にまで
入っているんだぞ…

ハア

子宮っ…?
バカなっ…!!

ハア

ハア

ズッ

どこまでやる気だ
この変態女……!!

カッ
カッ

ハア
変態……か……
なんとでも言え

カッ
カッ

我が主の為……
魔力蒐集の為なら
手段は選ばん……!!

ハア

ほ……ほら……諦めて
私の子宮に精液を……
魔力を吐き出せ……

ハア

ハア

カッ
カッ

くっ……も、もう
我慢がっ……!!

ハア

ひっ……!!





ひあうーっ……く……
…なか…っ…
あああああああ！

ハア

…んっ…
はあっ…

ハア

ま、魔力の質は
中の上…か…
流石は童貞だな…

ズン
ズン
ズン

だが、この程度では
まだまだ足りん…

ハア

ハア

ズン
ズン
ズン

ひいっ…
た、助けっ…

ズン
ズン
ズン

朝まで絞り取ってやる
覚悟するんだな…フフ…

ハア



東京
秋葉原

お、コスプレ
かわいいいな

ざわ
ざわ

でも何か様子
おかしくない？

なんかエロい
コスだよな

写メ撮って
おこう





ふ…あ…っ

はあ…あ…
はあ…っ



せ…精液、
です…か…？

そう、精液

あれは生体エネルギーの
塊だもの。魔力変換も
容易なのよ



ザザザザ

はあ…

はあ…

うううう

おいたいた

ぞろぞろ

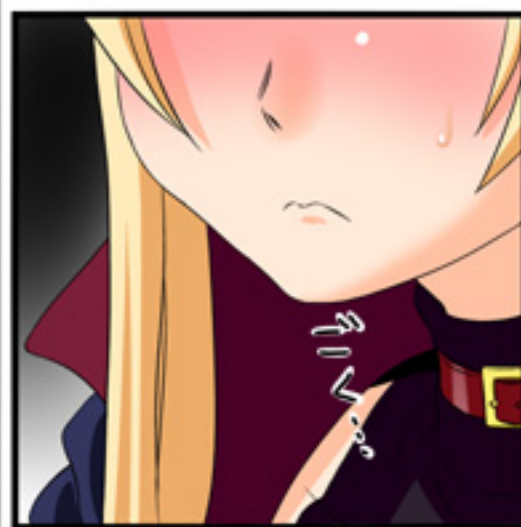
ねえ、キミちよっと
いいかな？

うわ、本当に
かわいいな



ジュエルシードも
まともに集め
られないのなら

そこらの男共から
精液を搾り取って
己を強化なさい





な、何か表情
エロいよな...

へへっ、見ろよ
ちっちゃな乳首
ピンピンに
しちやってるぜ

な、なあ...何か
太腿が妙に濡れてね?

カシヤ カシヤッ パシヤッ カシヤッ



お...おいつ
あれって...!?

○学生
くらいなのに
あんな太いのを...

ふああっ

あ...っ

す...すげえ...
ケツにまで
入ってるぞ!?

ど...どうして...?
わ、わたし...何で
こんなに感じ
ちやってるの...?

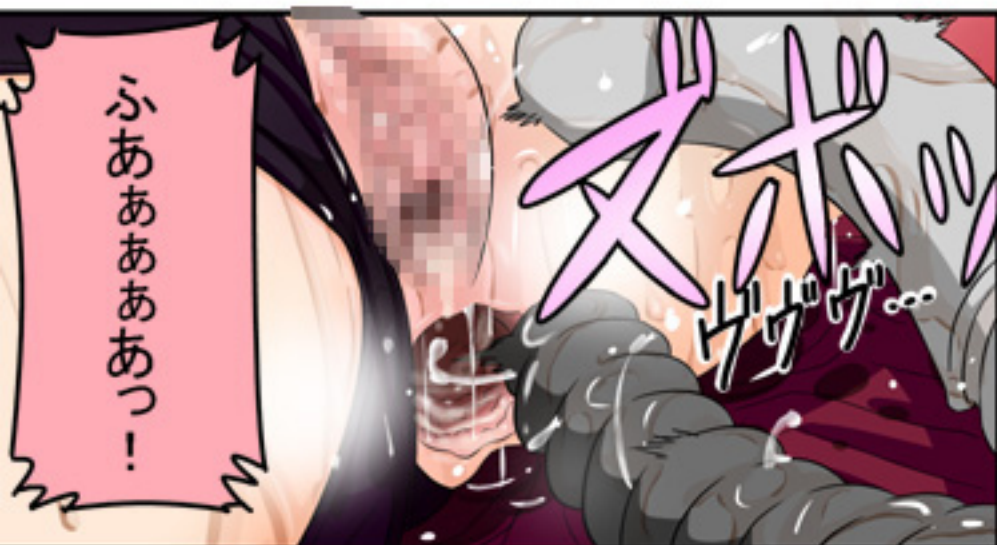
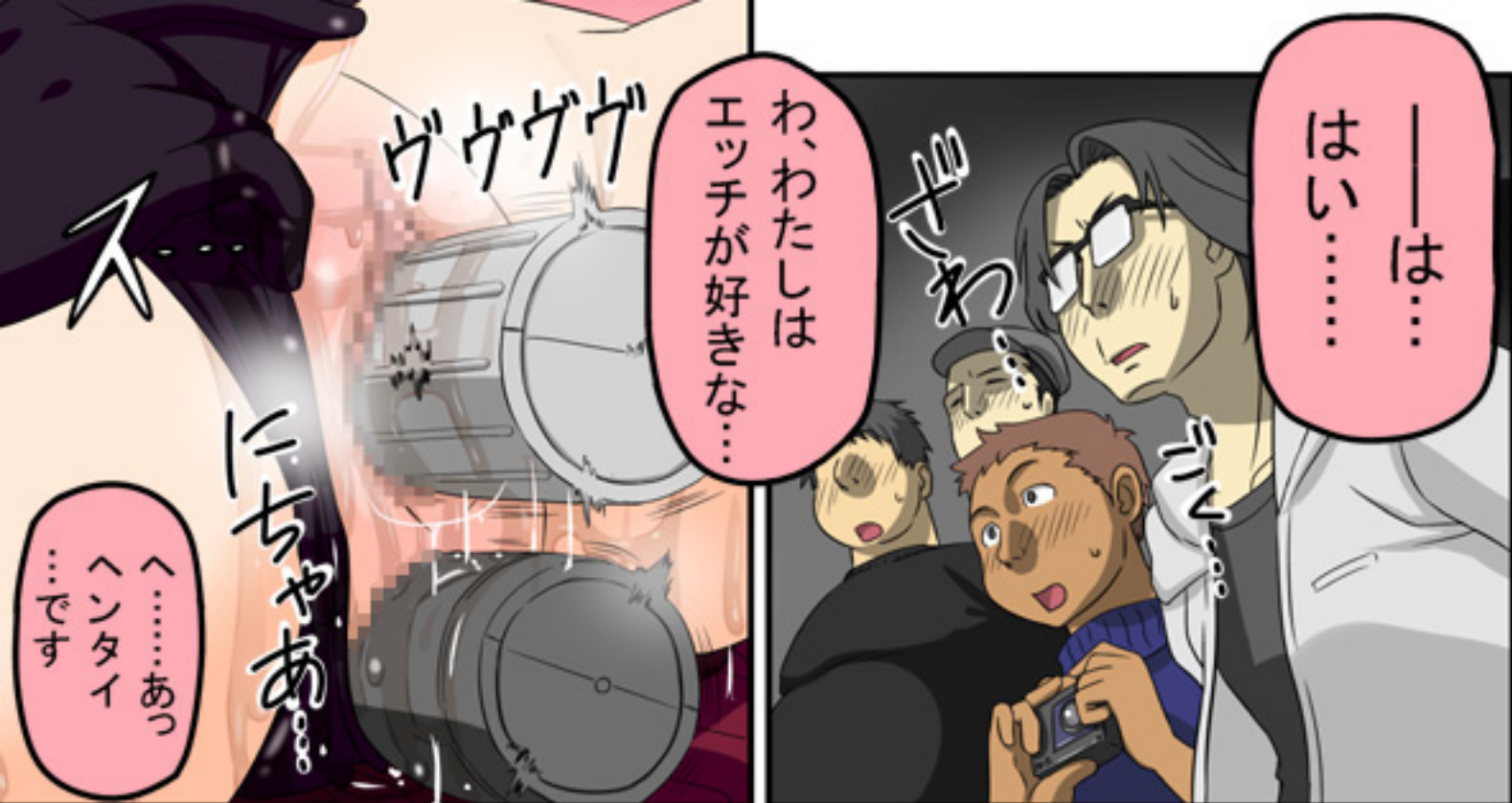


そ...それって
もしかしくなくても
パイプ...だよな?

は...!

は...!

キ、キミって
もしかして...
変態...なの?





きゃふあああ…ッ!!



も…もう我慢
できない…っ!

キヤッ!?



い…入れるよ?
入れるからねっ?

は…はい…
わたしの中に
精液…



お、おいい
オレにも
やらせるよっ



あ…
うああ…

ロリマンロ
最高おお…っ!

うああ…す…
すごい締め付け



じ、邪魔
するなよ！

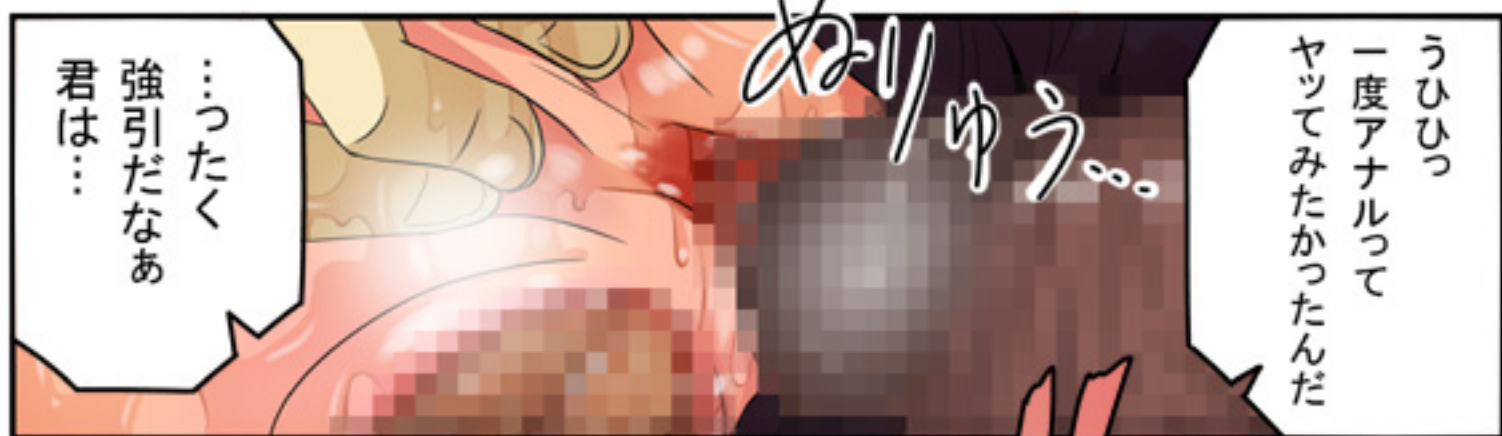
ドキ
ドキ...

うひひひひっ
空いてるお尻を
使うだけだし
別にいいだろ？



キヤッ

うわっ!?



うひひっ
一度アナルって
ヤッてみたかったんだ

ぬりゆう...

...ったく
強引だなあ
君は...



あああ
——
——
ツツ!!



す、すごい
これがアナル
はあっ、はあっ



マ……マンコも
プリプリで
ヤバい……ッ



ふわあああああ
あああ——ッ!!!

ビクッ
ビクッ

アッ
アッ
アッ
アッ

ビクッ
ビクッ
ビクッ
カッ
カッ
カッ

よおし
次はオシの
番だぜえ

ゴクッ

ふうう…
すげえ出たあ

あんなに小さくて
かわいいのに
本当に淫乱
なんだなあ

ぬろん

二本挿しされて
潮噴き…
エ、エロすぎるう



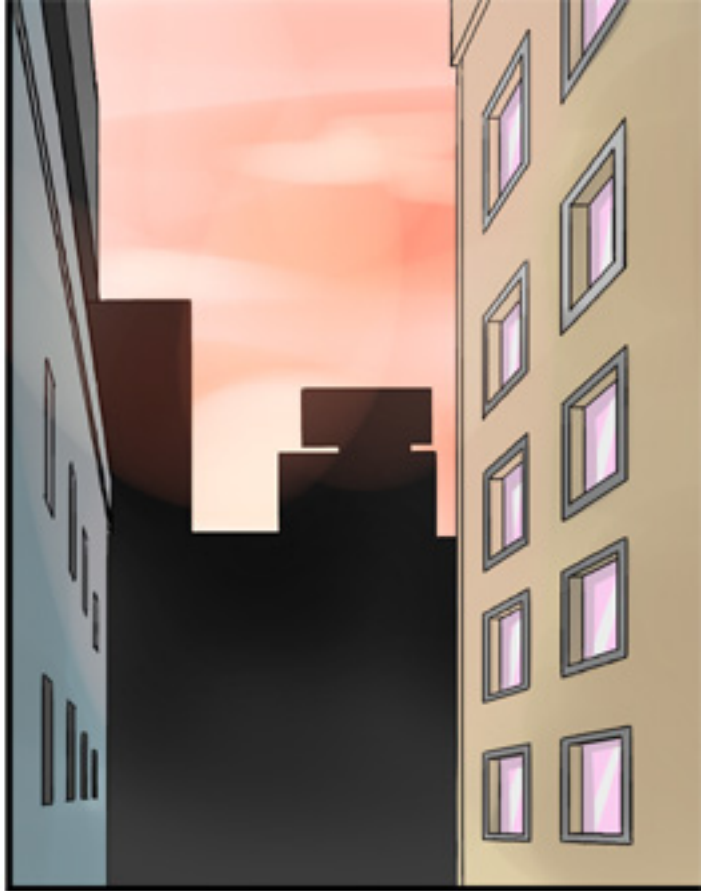


な…なんか
チンコ痛いなあ

ふう…
出した出した

お前、やり
すぎなんだよ

気持ち
よかったあ



じゃあね
お嬢ちゃん
それだけザーメン
もらえれば
満足でしょ



—これで
母さんも
喜んで
くれるかな…

はあ…

はあ…

け…

「あひいっ！？ 無理や！？
そんなにいっぱい入るわけっ……ああああっ！？」
ウチの油断が原因やった……背後から襲われて、
しかもリインと引き剥がされてしもて、
こいつはそんなに強くないけど、
デバイス抜きで倒せるほど雑魚やない。
「ひきやうっ！ うあっ！ ひああっ！？」
ズボズボせんとして、アソコ広がってまう！
捲れて……っひいあああっ！？ そこ、そこちやうっ！
お尻はそんなにいれるところやないっ！
はひうううっ！？」
そしてこいつらエロい事にしか興味ないらしい
ウチのアソコは最低でも三本以上の触手に犯されとる。
多いときには十本以上も……
やのに痛みがなくて気持ちいいのは、媚薬とかのせいやろう。

じゅぶ、じゅぶってえうちい音立てて
触手にオマ○コ擦られると、
腰がビリビリってなうてまう……。
「ふ……くれ、あがつて……また、せい……えき
出すつもり……っ！？ うそ、お尻のほうも大きくなって……
あかん！ そんな両方一辺に……ウチ壊れてま……
ひいっ！？ あ、あつうううっ！？」
いつせいに射精がきた。オマ○コとお尻で、
これまでで一番多い二十本近い触手が
一斉に中出ししてくる。
お腹がぼこぼこって大きくなって……。
媚薬の効果の強いせいでえきを、
こんなに出されてもうたら酷いこと……。
単独出撃やから、助けが来るの何時間後になるんやろな……

「ひ……きゃっ！太い、のがゴリ、ゴリって……っ！……あうっ！……んくっ！……ひうっ！……」
どうにか逃げれたのはいいんやけどお尻の穴も、アソコも媚薬精液でたぶたぶになってしもうとった。体の疼きが止まらんで……寝ずにオナニーしとるのに、まだエロい気分が収まらん。

「ふあ……ああああ……っ！胸もアソコもかんじすぎ……っ！」

今ウチの乳首にはローターが、オマの口にはごっつい太さのバイブが埋まるとる。皆に見せてからかったらって色々集めたのに、

自分の身体で試すことになるなんて……発情期の犬みたいに盛った身体は敏感すぎて辛いのに、弄っていいないと今度は疼きで狂いそうになってまう。

「はよう収まって……もう何回もイッとするのに……っ！……」
落ち着いてくれ……ンツ、あああっ！来るっ！

またくるっ！……いくらうらうらうらっ！……オマの口とお尻はウチの体液でドロドロのビチヨビチヨになっとる。

何回繰り返したらいいの……もういい加減辛いのに、またイッでしまおう。ヨリヨリになった乳首への振動が強くなって、太いバイブが奥の壁をこりって擦った。

ランダムで強くなる設定やから、ウチにもタイミングが読めんで、それがまた感じてしまっや。今ので十七回目。今日ははずせん用事でアースライかなあかんのにとないしよ……。



「ん……これ、見えてへんよな？ 誰にもばれとらん……な……？」

恐る恐る周囲を伺いながら、両足をガクガク震わせ歩いていく。顔はもう真っ赤や……体調不良で誤魔化しとるけど、いつまでもつやるか。結局、出る直前までオナニー続けても疼きは収まらんかった。でもオモチヤも外せへん。これで刺激がなくなったら、それこそ狂ってまう。

「変な声、出したらあか……んんん……っ！」

乳首を挟む形で、胸元には四本のローター。アツコとお尻には合計で5個もおもちやが入っとなる。

さすがに股間の方のスイッチは入れてへんけど……

「う……あ、これきつい……っ！ 歩いとるだけで、中がちやがちやぶつかって……っ！」

オマ○コの中でおもちやが転がっても、感じるだけでいく前に波が引いてまう。やから、もう1時間もアクメしてなくて……それが、拙かったんやろうなあ。

「ひうあああつ！？」

頭の中がピンク色になっとたせいで、床の空調に気づかんかった。スカートが捲れて、濡れたショーツとオモチヤ、そのヨードが見えてしまう。その瞬間、恥ずかしさのあまりようやくイクことができた。気持ちよかったんやけど今の声、かなり大きかったよなあ……。



「ひ……ふあつ！まだ、疼きが収まらん……身体熱い……っ。
ああああ……っ！……こんなにあかんのにいう！」
スカート捲れた事に関しては、誰も何も言ってこんかった。
本当に見られてないんがは解らんけど。
でも身体の方は深刻や……エロい事ばっかりしてるせいか、
それに慣れてしもうて、もっと強い刺激が欲しいなって。
もう、頭の中に浮かぶのはもう男のチ○ポだけやった。
「……さんなどこ見られたら……くう……ッ、指、止まらん……
あひっ……？ クリ気持ちええよお……ッ！」

生のチン○ンでぐちゃぐちゃに前も後ろも掻き回して欲しい。
その一心で男子トイレの個室に鍵もかけずに入って、
誰かに気づいてもらいたくて、エロい声をあげとる。
自分のしていること考えただけで頭が真っ白になって、
アツヨから愛液がびゅーって吹き出ていく。
「ばれたらどうなるんやろ……やっぱ、犯されまくった挙句に
脅迫されるんやろか……写真とか、撮られ……ふあああ……っ！
か、考えるだけでいってもうた……これでこんだけ気持ちいいなら、
実際に犯されたら……は……早く来てえええっ！」
ぶつといオチ○チンでウチのアソコを滅茶苦茶にしてええ！」
次第に声が大きくなっていって、子宮まで見えるほどに
広げたオマ○ヨとお尻を突き出しながら、叫んでしまう……。
こんな風になってしまっうなんて、ウチ壊れてしまっうたんやろか
……あ、ばたばたっって、足音が聞こえてきた……♪